

「中学生の部」

(銅賞)

〔自転車は車の仲間〕

山田 つかさ

愛知県名古屋市長守山西中学校二年

今朝、母がブンブンに怒っているのです、どうしたのかと聞いてみると、「お姉ちゃんがお弁当を忘れているから大声で呼び止めたのに、自転車でピューツと行ってしまった。」と言う。帰ってきてから母のカミナリが落ちた姉は、「ごめん、ごめん。携帯で音楽聴いていたから、気付かなかった。」と言い訳して、余計に怒られていた。当然である。危険の上ない。高校生にもなって情けないと思ったが、自転車に乗っている人達(特に若者)の中には携帯片手に運転している人が実に多い。この前も、下校時に私のカバンにバシッと何か当たったので驚いたら、メールを打ちながら自転車に乗っていた女のカバンにぶつかり「ああ、ビックリした！んもうっ！」とやや切れ気味に言い放った。(おいおい、それは私のセリフだわ!)と心の中で言い返したけれど、待てよ、これが小さな子供やえお年寄りだったら？と考えたらゾツとした。

自転車は免許証が無くても乗れるため、気軽に誰でも乗られるけれど、車両の一種であり、道路交通法に定められているルールを守らなければいけない。

もちろん携帯電話を使用しながらの走行は道路交通法違反だ、そんなにスピードは出ないし、少しくらいいいじゃん!と言う軽い気持ちで、携帯を使用しながら乗っているかも知れないが、便利で環境にも優しい乗り物の自転車も、間違った乗り方や、ルールやマナーを無視した乗り方をすると重大な交通事故につながることもある。

人を傷つけたり、自分が怪我をしたりしてからでは遅い。後悔先に立たずだ。「自転車も乗れば車の仲間入り」この言葉を肝に銘じて、気持ちを引き締めて乗らなければならぬと思う。「ペダルを使い、人の力で運転する2輪以上の車」これが道路交通法第二条の定めるところの「自転車」だ。こうして堅苦しい言葉にすると、自転車は玩具でも、チャリでもなく、れっきとした「車」なんだなあ実感できる。

こうしている今も携帯を片手にフラフラ走行している人が、事故の加害者になっているかもしれない。自転車はくるまだけれども、自動車と違い「乗る人のマナー」でかなり安全に走行できる「車」だと思う。耳栓をしたり、メールの画面を見ながら自動車を運転する人はいないのと同様に、自転車でもそういう行為は危険だということを誰もが忘れずにいてほしい。

三寒四温、もうすぐ桜前線が北上してくるこの季節、携帯よりも自転車に乗りながら、春の景色を見てほしい。昼間は薄いコートでも、ペダルをこいでいると汗ばんでくる。そうそう、自転車は安全で、便利で、環境にも優しく、そして、四季の美しさを一番感じられる「車」でもあるのだ。